

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1-2-3 農林水産業の担い手の確保・育成
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農業経営課長 栗原 一郎	電話番号	0852-22-5392
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	就農促進活動事業		
目的	(1) 対象	就農相談者及び就農希望者	
	(2) 意図	効果的な就農相談及び的確な就農支援を実施し、就農促進を図る。	
事業概要	1. 青年農業者育成センター就農推進事業 就農希望者の就農推進及び円滑な就農を支援するため、青年農業者等育成センターにおいて就農相談等広範な支援活動を行う。 2. 鳥根県就農推進事業 新規就農を促進するため、青年農業者等育成センターと連携し、就農支援活動を行う。		

2. 成果参考指標

(1) 指標名	就農相談対応件数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値			650	650	650	
式・定義	青年農業者等育成センターでの相談件数+農業普及部における相談件数	実績値	1,024	1,178	1,647	1,996		
		達成率		181.20	253.40	307.10		%
指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値		0.00	0.00			
式・定義		実績値	0.00	0.00	0.00			
		達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	16,047	18,031
うち一般財源 (千円)	16,047	18,031

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	①順調に進んでおり課題がないため検討していない
---------------------	-------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・東京、大阪、広島といった都市部での就農相談会を22回開催し、本事業で設置した就農相談員が積極的に相談活動を実施した。
- ・就農相談後の県内現地案内や、研修先の紹介なども実施することにより、新規就農者の確保に寄与することができた。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・相談件数が目標を大きく超えることができています。
- ・実際にこの就農相談を経て、就農した人が出てきており、新規就農者の確保に寄与することができた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ①県内の農業の担い手減少していることから、引き続き新規就農者の確保が必要。
- ②就農相談件数が増えてきているとともに、就農希望者からのニーズが多様化している。例えば、半農半Xに取り組みたい、有機農業に取り組みたいといった具体的情報紹介や体験希望等が増えてきており、こうしたニーズに対応できる相談体制や取り組みが必要。

②困っている状況が発生している「原因」

- ①県内農業者の高齢化。
- ②農業・農村への関心の高まりから就農相談数が増えてきており、それに伴い就農希望者のニーズが多様化してきている。

③原因を解消するための「課題」

- ①就農相談活動の強化
- ②就農相談者からの様々なニーズに対応した就農相談の取り組み

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ①就農相談活動の強化
県外での就農相談回数をさらに増やすとともに、市町村と連携し就農受け入れのパッケージ情報を提供しマッチングの可能性を高める。
- ②多様なニーズに対応した就農相談の取り組み
半農半Xや有機農業といった多様なニーズに対応するため、こうしたテーマでセミナーを開催するとともに、実際に現地を見てもらう就農相談バスツアーの取り組みも強化する。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）